

Waupaca Foundry Holdings, Inc.の 株式の取得(子会社化)について

2014年8月19日



<http://www.hitachi-metals.co.jp>

1. 買収の概要

2. Waupaca Foundry, Inc.概要

3. 両社事業の概要

4. Waupaca社買収の狙い

5. 買収スキーム概要および業績への影響

1. 買収の概要

- 日立金属は、鉄鋳物事業の抜本的強化、グローバルな中長期的成長を目的として、北米市場において輸送機向け鉄鋳物事業を展開する、世界最大の鉄鋳物サプライヤーWaupaca Foundry, Inc.（米国ウィスコンシン州、以下「Waupaca社」）の全株式を保有する、Waupaca Foundry Holdings, Inc.の全株式を取得、子会社化する。
買収価格は1,300百万米ドル。
- 2014年8月19日に株式譲渡契約を締結、クロージングは2014年10月の予定。
買収資金は借入金、手元資金を充当することを検討中。当社業績への影響については、第2四半期累計決算発表時に公表する予定。
- 本買収により、日立金属は、Waupaca社が有する圧倒的な生産規模および事業領域、顧客基盤を取り込み、グローバル市場における競争優位性を確保。
当社が志向してきた高付加価値ニッチゾーンに加え、Waupaca社が有する、競争力ある多量生産ゾーンへ事業領域を拡大することで、世界最大の鉄鋳物サプライヤーとして中長期的な成長の実現をめざす。

2. Waupaca Foundry, Inc.概要

会社名	Waupaca Foundry, Inc. (ワウパカ ファウンドリー、非上場)
拠 点	本社: ウィスコンシン州ワウパカ市 工場: ウィスコンシン州に4工場、他州(テネシー・インディアナ)に2工場
代表者	Gary Gigante: (Chief Executive Officer)
設 立	1955年5月4日 (創業は1871年)
売上高	1,735百万米ドル (2013年9月期)
社員数	約3,900人 (2014年5月末現在)
事業概要	輸送機向け鉄鋳物の開発・製造・販売 世界最大の鉄鋳物サプライヤー、年間生産能力157万トン
対象市場	自動車(Light Truck/Heavy Truck/Passenger Car) 農業機械、産業機械、建設機械等

3. 両社事業の概要

	日立金属	Waupaca社
特長	・独自の材料技術・製品開発力で開発型製品を提案、供給 ・当社独自の強みが活かせる高付加価値ニッチゾーンに特化、特長ある足回り、エンジン部品を供給	・鉄铸件における世界最大の生産規模を有し優れた生産技術・生産管理で高い競争力を確保 ・生産規模が活かせるボリュームゾーンに特化、広範囲な事業領域と安定した供給実績で圧倒的な市場シェアと強固な顧客基盤を確立
主な製品	ナックル・アーム、エンジン部品	ブレーキ・エンジン・駆動用部品、ナックル・アーム
顧客基盤	日系・欧米自動車メーカー（直接取引）	北米の自動車および農業機械・産業機械・建設機械のTier-1メーカー
生産能力	192,000トン/年（16,000トン/月） （日本、北米、韓国 3拠点合計）	1,570,000トン/年（北米6工場合計）
売上規模	450億円（2014年3月期） * 高級ダクタイル鑄鉄製品の売上高	1,735百万米ドル（2013年9月期）

4. Waupaca社買収の狙い

事業領域の拡大・圧倒的な生産規模、生産技術・強固な顧客基盤
グローバル市場における競争優位性を確保

鉄铸件事業の市場構造

買収前
当社事業領域

買収後
当社事業領域

日立金属事業領域
(高付加価値ニッチゾーン)

高級DCI市場
(ハイグレード)

Waupaca社事業領域
(多量生産ゾーン)

多量生産GI・DCI市場
(ミドルレンジ)

北米における自動車を中心とした鉄铸件需要は今後も安定的に推移する見込み。Waupaca社が有する競争力ある多量生産ゾーンへも事業領域を拡大することで中長期的な成長を実現

DCI; Ductile Casting Iron
(球状黒鉛鑄鉄)
GI; Gray Iron(片状黒鉛鑄鉄)

5. 買収スキーム概要および業績への影響

買収価格	1,300百万米ドル
買収スキーム	・米国にSPC(買収目的子会社)を設立。Waupaca Foundry Holding, Inc.(以下「Waupaca HD社」)株式の取得の対価は、当該SPCを通じて現保有者であるKPSキャピタル・パートナーズが支配および運営するファンドが保有するWF Global II B.V.に支払われ、米国法に則り、Waupaca HD社とSPCとの合併を行う ・本買収のクロージングは、2014年10月を予定 (ただし、米国の競争法に関する手続きの完了が必要となる) ・買収資金は、借入金、手元資金を充当することを検討中
業績への影響	・当社業績への影響については、第2四半期(累計)決算発表時に公表する予定 ・2015年3月期末D/Eレシオは0.6前後となる見込み

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動